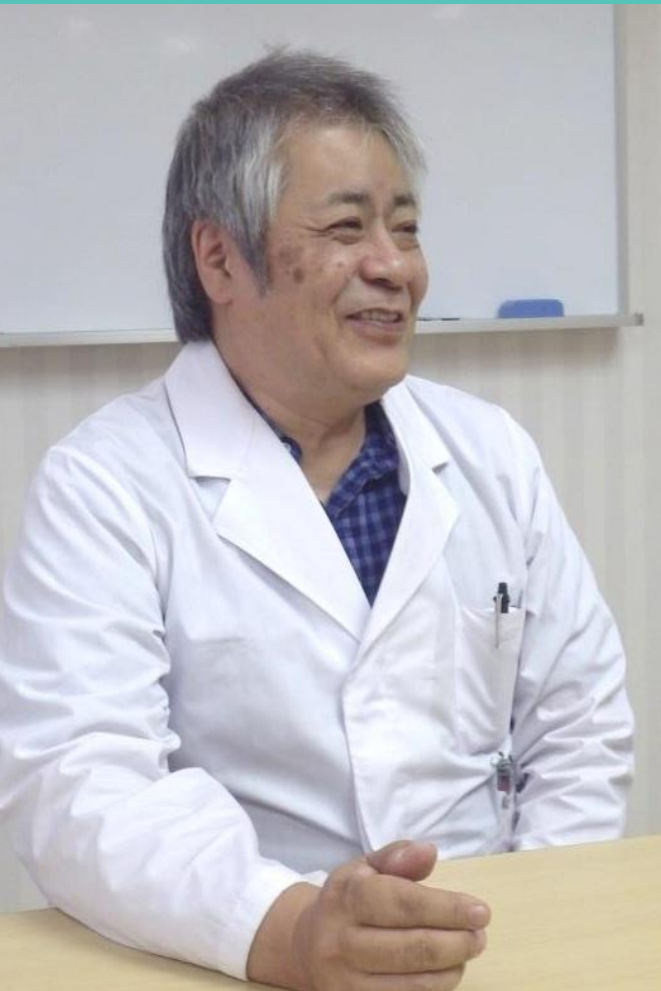


第1回

京都府立洛南病院

かわばた としたか
川畑 俊貴 副院長



京都府立洛南病院
川畑 俊貴 副院長

大学卒業後、精神科医となる。
平成2年に京都府立洛南病院に
赴任以来約30年にわたって薬物
依存症を専門に治療に当たる。

精神科医の中でも薬物依存症を
専門とする医師は珍しく、最前線
の現場で患者とともに依存症と戦
い、社会復帰を助けている。

川畑副院長は、約30年にわたり、京都府立洛南病院
で薬物依存症に苦しむ患者を治療しています。

今回、「治療のスペシャリスト」に、大麻の「本当のこと」
を聞いてみました。

大麻依存症の患者が急増しています

私は、平成2年に京都府立洛南病院に赴任してから主
に薬物依存症の治療に当たってきました。

以前は、薬物依存症といえば覚醒剤によるものが多
かったのですが、**平成26年以降、大麻依存症で
入院する患者数は約20倍にも増えました。**これ
だけ入院する患者さんが増えているということは、大麻を
使う人が相当増えているんだろうとわかりますよね。**入
院することは幻覚や妄想が出ていますし、
もう大麻精神病といえます。**大麻精神病には2種類
あるのですが、大麻中毒性の「急性精神病」か「遅発性
精神病」になってしまっているということです。ちなみに、
大麻を使うのをやめてから3週間以内に幻覚や妄想が
消えるものを「急性精神病」、6か月を超えて残るものを
「遅発性精神病」としています。

今入院している薬物依存症の患者さんのうち15、16
%くらいが大麻依存症の患者さんです。最も多いのは
覚醒剤依存症の患者さんで、その次がアルコール、大麻、
睡眠薬の順です。平成25年ころには危険ドラッグが2
位になっていたのですが、今はゼロになりましたね。

**多くの患者さんが「覚醒剤は危なそうだし怖い
けど、大麻なら大丈夫だろう」と考えて使うよう
になったと言うんですよ。ところが、いつの間にか
通院しなきゃいけないとか、入院しなきゃいけない
といった状態になっているんです。**

Q

精神科医のお仕事って？

うつ病や統合失調症、パニック障害、薬物依存症など
心の病を薬やカウンセリングによって治療します。

A

目に見えない病なので、その患者としっかり向き合い、
理解し、最も適した薬や治療法を考えます。

依存症になるのはドーパミンのせい

私達の生活っていうのはストレスとともにあります。例えば、勉強や仕事ってストレスですよ。でも、そういったストレスっていうのは、努力して苦勞してやり遂げるとスカッと気分が晴れますよね。その時に脳の中では報酬系神経伝達物質といわれるドーパミンが出ているんです。**ドーパミンがストレスを解消してくれるからスカッとする**んですよ。

私達は日々「努力して、達成して、ドーパミンをご褒美としてもらう」を繰り返しているんです。でも、**大麻や覚醒剤、アルコールなどの依存性物質を使うと、「努力→達成」というプロセスを踏まずにドーパミンが出ます。簡単にスカッとするのでクセになる**のです。

大麻を吸って、一度でもボンとストレスがなくなつて気分が良くなることを記憶してしまうと、それが忘れられず繰り返し使ってしまうようになる。これが大麻依存症の始まりです。

現実というストレスから逃げることでドーパミンを手に入れてスカッとするというのは、薬物依存症だけじゃありません。例えば、パチンコも同じなんです。仕事を抱えて、借金を抱えていても、パチンコを無心でやって、数字が揃って「やったー！」となった瞬間、ドーパミンがバツと出てスカッとします。これがクセになったのがギャンブル依存症です。ほかにも、ネット依存症であれ、買い物依存症であれ、依存症になる仕組みは同じです。

ドーパミンに魅せられて、それを求めて、それから逃げられなくなって依存地獄に落ちていくんですよ。

Q

WHOの考えは？

A

国連の専門機関である世界保健機関 (World Health Organization: WHO) は薬物依存症に関する疾患として、カンナビノイド(大麻に含まれる物質)によるものを挙げています。

大麻が健康被害を生むということは医学的な常識なのです。

大麻の害は「依存性」と「脳への障害」

大麻の害は大きく分けて2つあります。

それは、「**依存性**」と「**脳への障害**」です。

まず、依存性についてですが、よくインターネットを見ると、大麻はクセにならないなんてありますよね。でも、現実には、私たちの病院にも「**大麻がやめられません、何とか治療してください、大麻を使ってしまうのを治してください**」と助けを求める患者さんが**いっぱい**います。この辺りからも大麻には確実に依存性があるということが分かります。

大麻にどのくらいの依存性があるかという、例えば、ヘロインっていう薬物はもう絶対に抗えないほどの強い依存性ですが、ここまではありません。

アルコールと比較すると、海外の統計や研究なのですが、アルコールの依存症化率はアルコール常用者のうちの0.9%ですが、**大麻の依存症化率は10%**とされています。

また、たびたび「タバコは大麻より依存性がある」なんて言う人がいるようですが、タバコって昭和40年ころは20歳以上の男性で80%台の喫煙率でしたよね。ところが、健康被害があるというキャンペーンなどをやったことで、今は20%台にまで落ちています。タバコって違法じゃないのにここまで激減したんです。もし、タバコを持っていたら逮捕される、裁判になる、場合によっては有罪になるなんてことになったら、吸う人はいなくなるでしょう。ところが、大麻は違法なもので、持っているのがバレたら逮捕されるっていうのに急増しているんです。

依存性の強さを測るという資料はなかなかありませんが、タバコに比べて依存性がないなんていうのは乱暴な理論ですよ。





「脳への障害」ってかなり怖いんです

人間の脳って、たくさんの神経細胞があるんですけど、ずっとそのままじゃなくて、細胞が10個死ねば10個生まれるというサイクルで保たれているんです。でも、**大麻を使うとTHCが脳の細胞の死ぬ速度を上げてしまいます。死ぬ速度が上がるとことは、生まれる速度がついていけないから、脳がだんだんと小さくなっていきます。**大麻でも、覚醒剤でも、アルコールでも、長年にわたって使いすぎると脳が縮んで、最終的には認知症のような状態になってしまうんです。俗語で、覚醒剤なら「シャブボケ」、アルコールなら「酒ボケ」とかいうのがあるでしょう。

特に**大麻は、脳の中の「海馬」というところの細胞を早死にさせる特徴があるといわれています。海馬は、「記憶のストレージ」の役割をしますので、これが縮むということは記憶障害が起きてしまいます。**

これが大麻の一番怖いところかもしれませんね。

大麻を使っていた人が治療してなんとかやめることができて、これからは心を入れ替えて働こう！ってなった時に記憶障害が影響してしまうんです。

よくある例なのですが、コンビニってレジ打ちやら品出しやら発注やら、山ほどやることがありますよね。普通の若い人ならなんとか覚えてやっていけるようなことを、大麻依存症の人はできないことが多いのです。いつまで経っても覚えられないとか、仕事が遅いとか、結局、辞めざるをえなくなるケースも多くて。

例えば、学生だったら、学校の勉強についていけなくなってしまいますよ。

大麻は人生を狂わせる

私が印象に残っている子の話をしましょう。

その子は、中学2年生で、クラスで1、2位の成績が取れるくらい頭が良く、両親もご立派な家庭で育ちました。

ある日、幼馴染の友達の家に行くと、その友達のお兄さんが「ハッパをやってみないか。」と勧めてきたのです。やっぱりその時、そのお兄さんから**「大麻は覚醒剤と違う、依存性も絶対はないよ、俺ももう6年やっているけどいつでもやめられる、アメリカでは薬としても使われているくらいだから体にも良いんだ」**なんて言われて信じてしまった。そこで初めて大麻を使ったのです。

それが悪夢の始まりでした。

結局、中学3年生になった時には、毎日大麻を使うくらいまでハマってしまっていたのです。

これまでお話したとおり、学習能力も落ちるので成績はポロポロ、もちろん高校受験も失敗、就職も失敗、全てがうまくいかなくなってしまいました。

大麻を買い続けていれば、当然お金がなくなります。親もお金をくれない、仕事ができないから自分でも稼げない。仕方ないから大麻の元請けみたいなことを始めるんです。仕入れた大麻を売りさばくのです。

でも、もともとまじめな子だから、不良付き合いもなく、売る相手が見つけれない。それで売れ残りを吸ってしまうなどして、最終的にうちの病院に来たんです。リハビリテーションも含めて8、9か月間治療した結果、なんとか就職できるまでに回復しました。今はちゃんと勤めることができています。本当に良かった。

でも、大麻依存症や記憶障害など、治療やリハビリでずいぶん再生したのですが、大切な15歳くらいから20歳くらいまでの間を大麻に振り回されているんですね。もっといろいろな力を発揮できた子だったんじゃないかと思います。**大麻に人生を狂わされてしまった**と言えるでしょう。

Q

大麻に手を出したきっかけは？

警察庁の調べ(平成29年)によると、大麻を初めて使用した経緯で最も多かったのは「誘われて」でした。

A

友人や先輩などに誘われ、好奇心やその場の雰囲気流され、大麻にハマってしまうのです。

大麻にまつわる4つのウソがある

私は日々患者さんと向き合う中で、大麻にまつわる4つのウソが見えてきました。これらのウソが想像以上に世の中に広がっているんだろうと思います。

- 1つめは、「**大麻は精神病にならない**」というウソ。
- 2つめは、「**大麻には依存性がない**」というウソ。
- 3つめは、「**大麻は体に良い**」というウソ。
- 4つめは、「**大麻を禁止するのは国の間違い**」というウソです。

「大麻は精神病にならない」というウソ

まずは「大麻は精神病にならないというウソ」です。お話したとおりですね。幻覚や妄想が出て、最終的には認知症のような状態になってしまう。

そこまでひどくなくても、**一見普通に生活しているような人でも、実は記憶障害が出ているということも多い**んですよ。大麻をやめて、さあ働こうという時に、この記憶障害のせいで仕事がうまくいかないのです。

大麻精神病の特徴的な症状ですが、幻覚が長く続いた患者さんは入院すると病室でじーっと何もしない、あれ？どこに行ったのかな？というくらいの感じで1日中ぼーっと座っている。人によって症状の出方はさまざまですが、このように**無気力になる「無動機症候群」の割合が多い**と思います。

覚醒剤の場合は動き回る割合が多いですね。

「大麻には依存性がない」というウソ

次に「大麻は依存症にならないというウソ」についてです。これもお話したとおりですね。

私達の病院での大麻依存症の初診患者をみると、幻覚や妄想がまだ出ていない段階で「**大麻がやめられない**んです。」って来院する人が最近増えているんです。もうこの事実だけでも大麻に依存性があるっていう証拠ついでいえますよね。

大麻は覚醒剤に比べると効きが緩やかです。また、**急に使用をやめても、少し不眠になったり、食欲不振になる程度なので使っている本人は依存性があることに気が付きにくい**んですよ。

でも、仕事をしようとか、結婚しようとか決めた時に大麻をやめようとしてもやめられず、初めて自分が依存症

京都府警本部にも行ったよ。



になっていたと気付くんです。だから、**依存性がない**という間違った考えが広がっているのでしょう。

「大麻は体に良い」というウソ

海外では実際に医療大麻が使われています。論文を読む限りは、小児の特殊なけいれんとか、食べることができなくなった末期のエイズ患者などに有効です。でも、たいていはほかの薬のほうが効くんです。結局のところ、医療大麻よりも良い薬はいっぱいあります。

医療大麻は錠剤になっています。製剤に工夫があって、一定時間かかって体内で溶けるようになっているから、血中濃度が上がるのをなだらかにコントロールしてくれる。

ところが、吸煙する大麻は、肺にはりめぐらされた血管から、瞬間的に血に混ざりこんで、血中濃度を急に上げてしまう。その結果、脳に障害を出してしまうんです。

医療大麻があるから大麻が安全というわけでは絶対にありません。胃薬でも鎮痛剤でも用法用量を守っているからプラスになるんです。それを守らないのならば、どんな薬だって毒になります。

医師が適切に処方して、患者が適切に使用することが大事なんです。

もし、日本で医療大麻を認めるというなら慎重な議論と制度作りをしなければなりません。そもそも今あるほかの薬で大丈夫です。



「大麻を禁止するのは国の間違い」というウソ

次に「大麻を禁止するのは国の間違い」というウソについてです。海外には大麻が合法という国があるのに、日本が禁止しているのはおかしいという考え方をする人がいるようです。でも、日本が大麻を合法化してもメリットはなく、デメリットでしかない。

あらゆる依存性物質には「使用限界」というものがあります。例えば、お酒は合法だからといって国民100人中100人が飲むわけではない。このように合法で、自由に買って、どこで売っているというものでも、使う人もいれば、使わない人もいます。

大麻も、いろいろな国の調査で最高使用率は50%といわれています。つまり、大麻を合法化しても国民の半分は使わないんです。

もし、今日本が大麻を合法化したら、1億2,000万人のうち6,000万人が使って、600万人が依存症になる。600万人が依存症になれば、国が莫大なお金をかけて取り組まなければならない大問題になります。医療費や生活保護費、取締り費用、裁判費用、刑務所費用など、ものすごい額になりますよ。大麻で注意力が落ちて交通事故なども増えます。

大麻を吸っても何も実現しないし、むしろ健康被害や経済損失などで国民の幸せとはほど遠いものになっていく。

合法化しようとしている国やアメリカの一部の州は50%以上の人が常用してしまっていたんです。こうなってしまった場合、大麻を合法化してももう使用者数は増えないから医療費などは増えないし、取締り費用なども必要なくなります。

そういう事情があってやむをえず合法化しているのです。国や州で管理すれば税収になったり、マフィアなどに流れる金もなくなりますね。ただ、これは**国や州としての「敗北宣言」**にほかなりません。**政治家も「私達は人体に危険なものを仕方なく合法化します！」なんて本当のことは絶対に言いません。**むしろ「そんなに危険じゃない。」としか言えない。インターネットなどでも、そういった本当のことには全然触れていない。

日本は先進国の中では大麻の常用者率が極端に低い国です。この良い伝統、好ましい習慣を崩すということがあってはなりません。

若いみなさんに伝えたいこと

大麻を使わないかと誘われたら、**間髪いれずに「やらない」と答えてください。**そこで迷いなく答えることが、あなたの意思の強さを伝えます。大きな声を出す必要はありません。**その一言があなたの人生、これからの何十年を救ってくれます。**

友達が「大麻を吸ってみたい」なんて言ったら怒ってあげてください。「何言ってるんだ、警察に言うぞ」と。その場はしらけるかも知れませんが、「私は大麻なんかやらない」という看板を上げることができます。

もし、すでに使ってしまった人は、すぐに医療機関の門戸を叩いて治療を受けてください。**依存症や脳の障害は進行性のものですから、絶対に治療は早いほうが良い**んです。

みなさんの人生はまだまだこれからなんですから。



「治療のスペシャリスト」のことばまとめ

- 大麻の大きな害は「**依存性**」と「**脳への障害**」です。
- 大麻を使うと勉強や仕事などがうまくなりません。
- もし日本で大麻を合法化しても**デメリット**しかありません。
- 誘われても**間髪いれず断ってください。**
- **大麻依存症や脳の障害は進行性**なので**早期の治療**が大事です。

先生の「大麻で苦しむ人を救いたい」という優しさが伝わりました！



to be continued